

さわやかトカラ情報

南北160km

「心をつなぎ 気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822鹿児島市泉町13番13号
TEL 099-227-9771

【新たな義務教育学校がスタート！歴史を刻んでいきます。】

十島村教育委員会教育長 木戸浩

4月12日にフェリーとしま2が再開し、ようやく日常が戻ってきました。“汽船も亦道路なり”の言葉を改めて実感し、「当たり前」の大切をひしひと感じたところでした。

さて、皆さんに長く親しまれてきた各島の小中併設校が閉校となり、4月1日より新たに「義務教育学校」として生まれ変わりました。各学校が島の名前の後に学園を続けて、〇〇学園という校名になりました。真新しい校名の表札が取り付けられていますので、ぜひ御確認ください。ただ、校名は変わっても建物や児童生徒、教職員が変わった訳ではありません。小学校の6年生までを、義務教育学校の前期課程として1年生から6年生とします。そして、今までの中学生を後期課程として7年生から9年生と呼ぶようになります。また、1つの学園（学校）になりましたので、校長先生が1人、教頭先生も1人、そして養護教諭も1人と、こちらも変わりません。しかし、義務教育学校になることで、教頭先生を1人増やす代わりに、中学校籍の先生を1人多く配置していただきました。今までは中学校にそれぞれの学年に1人でも在籍者が居たら5人の先生が配置されていましたが、義務教育学校になることで、もう1人配置され、6人になりました。中学校の教科は9教科ありますので、本来なら9人の教科担任が必要ですが、十島村のように、極小規模校では全教科の先生は配置してもらえません。しかし、6人の先生方が臨時免許状を取得して、1人で2教科ほど受け持つことで、教科指導ができます。つまり、より専門教科の先生から学習指導を受けることができるようになります。小学校の先生でも臨時免許を取得して、中学校の教科を受け持つことも可能です。小中学校の乗り入れ授業といって、専門性の高い中学校の先生が、専科授業として小学生を指導することもできます。児童生徒にとっては、学力向上につながり、先生方にとっても負担軽減となり、働き方改革にもなります。これからの学校の様子をしっかりとご覧ください。

学習の中身としても、総合的な学習の時間を『トカラ科』という名称に統一して、それぞれの島の特徴に応じて、自然や文化、独特な伝承行事などを、自分たちで調べ、こだわり、発表するところまでを系統的に進めていきます。ALTの外国人の先生もこれまで通り各島1人ずつ配置してあります。他の市町村ではなかなか難しい配置です。外国語の更なる伸びを期待したいと思います。

【各島・学校に先生方が着任されました。】

3月31日の代船みしまで、今年度十島村の各学園に赴任される先生方35人が（新規採用教員8人を除く）各島に向けて出航しました。通常のルートではなく、最初に宝島に向かい、まだ夜も明けやらぬ4時半過ぎに到着しました。同じく小宝島もまだ暗い中で接岸でした。悪石島からようやく明るくなってきました。平島では朝日がまぶしく感じる状況でした。諏訪之瀬島でも御岳の噴火もなく灰の洗礼はありませんでした。中之島は晴れ渡り、御岳の山頂まできれいに見えていました。口之島は昼前に到着し、長時間乗られた先生方もようやく着任することができました。各島で、新しい先生方を温かく迎え入れていただきました。これからもどうぞよろしく願いいたします。（新規採用の先生方も2日から5日にかけて、全員無事に着任しております。）

教育委員会としても、子どもたちの安心・安全を第一に、そして教職員を含め、全村民の方々の健康を守るために、これまでどおり全力で、学校教育・社会教育・社会体育を充実させ、文化財等も振興しながら、今年度も頑張ったいと思います。

今年度も「さわやかトカラ情報」を村内全世帯にお配りします。御一読をお願いしつつ、今年度もどうぞよろしく願いいたします。



令和6年2月29日 南日本新聞「若い目」掲載



島のみみんなに感謝
私は小さい頃からずっと十島村の小宝島で生活してきました。毎年多くの人と出会い、別れを重ねて、いろいろな人に支えられて、ここまで成長することができました。小学五年生の時、ずっと一緒にいた友だちが、親の転勤で去ってしまいました。その際、落ち込んでいた私を励ましてくれたのは、学校のみんなや地域のの方々でした。そして今年はどうも私が見送られる番になりました。卒業して、鹿児島市内の高校へ進学するつもりです。受験に向けて勉強もしなければなりません。学校のみんなや地域のの方々から教わったことを活かして、新しいことに挑戦したいと思います。お世話になった先生方、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなに感謝しています。これからも頑張りたいです。

島のみみんなに感謝

小宝島中三年 岩下和矢



令和6年2月29日 南日本新聞「若い目」掲載

島で頑張った
僕が去年四月、神奈川県から山海留学で諏訪之瀬島に転校して、一年が経ちました。最初は、友達もいないし、勉強もわからないし、生活もわからないし、とにかく大変でした。でも、先生方、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、みんなのサポートのおかげで、少しずつ慣れてきました。勉強もわかるようになってきました。生活も楽しくなってきました。これからも頑張りたいです。

島で頑張った

諏訪之瀬島小六年 今井海瑠



【留学生活2年目を迎えるにあたって】

口之島学園 6年 松下 心風

ぼくは、口之島に来て1年が経ちました。学校では、口之島でしかできない行事を体験しました。特に海での行事です。魚釣りや海水浴場で泳ぐ水泳学習、追い込み漁など本土ではできない学習をたくさんしました。ぼくの将来の夢は「漁師」です。このような経験を自分の将来の夢に生かしていきたいです。

口之島に来て一番驚いたことは、海がきれいなことだと思います。鹿児島本土とは違い、透き通っていて驚きました。このような自然と共に暮らすことを幸せに思います。

4月から口之島での生活2年目はスタートします。6年生への進級にあたって目標を立てました。それは、勉強をがんばることです。あと1年で後期課程に進級します。難しい勉強についていくために、1～6年生で習ったことをしっかりマスターして後期課程に進級したいです。

島民の方や寮監さん、留学させてくれている両親に感謝しながら、2年目の生活を充実したものにしていきたいです。



【宝島小・中学校からのメッセージ】

教諭 福永 彩夏

「さあ行く 夢に見た島へと〜？」これは、私が好きな合唱曲の出だしの部分です。その曲のタイトルは「宝島」。赴任が決まったときに、真っ先にこの歌を思い出して、どんな場所なんだろうと思ったことを覚えています。

実際に来てみると、青く澄んだ海、立派に育ったガジュマルの木々、港の大きな壁画、見るもの、一つ一つに圧倒されました。学校を訪れると、少し高台にあるため、集落やどこまでも広がる海が見渡せます。さらに、北に面しているのは、一番近い小宝島はもちろん、天気の良い日には、中之島まで見ることが出来ます。毎日、今日はどこまで見えるかなと海を眺めることが日課となりました。

また、宝島での生活は、色々な方々の協力のおかげで成り立っていることを常と感じます。運動会や文化祭は島一丸となって取り組む大イベントです。昨年度は、文化祭の運営に係として携わりましたが、島民の方々からもたくさん舞台発表や展示発表があり、大盛況で終わることができました。普段の授業では、子供たちのためにわざわざ時間を割いて、島の産業である畜産についてや馬の飼育についても勉強になりました。日常生活でも同様に、その度に、人の温かさに触れ、有り難い気持ちでいっぱいになります。これからも、感謝の気持ちを忘れず、私ができることを精一杯取り組んで、宝島に返していければと思います。

『教職員仲間であるあなた』への 私からのメッセージ

新年度がスタートしました。忙しい日々を送られているのではと思います。コーヒーを飲んでホッと一息つける時間も大切にしてくださいね。また、村教研で目にかかれることを楽しみにしています。